

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども発達支援所はる 保育所等訪問支援		
○保護者評価実施期間	R6年 11月 1日		R6年 11月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	42	(回答者数) 30
○従業者評価実施期間	R6年 11月 5日		R6年 11月 13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○訪問先施設評価実施期間	R6年 11月 1日		R6年 11月 20日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	R6年 12月 16日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	園の先生が支援を見学できたり、支援方法について園の先生とすぐ共有できる。	支援後に園の先生へ支援内容を伝達したり、園の先生からの相談にのったりしている。	必要な情報を訪問担当から園の先生に聞き取り、支援に役立てる。
2	児童指導員、言語聴覚士、作業療法士、理学療法士、心理士が訪問しており、それぞれの立場からお子様にとってよりよい支援を検討し療育に取り組んでいる。	子どものニーズに応じて、訪問担当以外の専門職からもアセスメント・コンサルテーションしてもらっている。	訪問担当以外の専門職も必要に応じて訪問支援に加わる。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者への支援内容の伝達が連絡ノート中心になっている。	他の業務があるため時間が割きにくい。	必要に応じて、電話やLINE、面接等でも伝達していく時間を確保する。
2			
3			